
幸せ学園生活

Syura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せ学園生活

【Nコード】

N5545W

【作者名】

Syura

【あらすじ】

世界一幸せ物だという少年の学園生活！

でも幸せという割には不幸なことばかりがおこっているような……
読者の皆さんが読みながら小説に突っ込む以外に突っ込む人はいない変な小説

感想でのツツコミお待ちしております

第一話 あたりまえ(?)の日常(前書き)

前から書くころとは思ってましたけど遅くなりましたね……

一話約1000文字でやっていききたいと思います

では第一話をどうぞ

第一話 あたりまえ(?)の日常

やあ皆さんこんにちは！

俺の名前はこのまえ一みさち 未幸

名前からして不幸に聞こえるだろ？

でもとうの俺はちよう幸運の持ち主！

大怪我をしてもかならず治るし、学校へ通うときも一回しか車に引
かれない、そして高校に通えてる！

今日も朝から親友の妃めい 優夜ゆうやと学校に通ってる

学校はめんどくさいこともあるけど楽しいこともある、本当に幸せ
な毎日だ

優夜

「どうした？様子がおかしいぞ？」

未幸

「え？いや、なんでもない……」

少し考え事を（ドガン！）ぐほあ！」

優夜

「ああ、あ、また車に引かれてるよ……」

いつもの交差点、いつもの光景

それは普通の交差点が真っ赤になる瞬間

このごろはこれがないと眠気がさめないんだよねえ

車の運転手

「おい！大丈夫…なんだ君か」

未幸

「あ、おじさん

おはようございます」「(だらだらだらだら)

車の運転手

「おお、おはよう

今日も元気かい？」

未幸

「はい、今ので眠気も覚めましたし絶好調です！」(だらだらだらだら)

車の運転手

「そうかい、じゃあ学校がんばりな！」

未幸

「はい、じゃあまた！」

いつものように会話していつものように分かれる

優夜

「おい未幸、頭から血が流れてるぞ」

未幸

「あ、本当だ

いつもは腕とか足なのになあ……」

優夜

「まあ血だらけなのには変わらないけどな」

あとで更衣室いかなきゃな……

え？なぜか？

そりゃ血だらけの服では町は歩けないよ

ちゃんと着替えも持ってきてるし学校で毎日着替えるんだよ
予備の征服を10着、これって常識だよな？

未幸

「とりあえず学校に（ドガン！）メピヤア！」

運転手2

「ああ、ゴメンゴメン！」

携帯かかってきてさ！」

優夜

「携帯しながら車には乗らないほうがいいですよ？
今みたいに人を引いたらどうするんですか？」

運転手

「そうだね、気をつけるよ

ところで君、病院まで送ろうか？」

未幸

「はい………お願いします………」

頭打ったからキズが広がった………

まあ骨が折れてないだけましかな？

うん、今日も俺はラッキーだ！

優夜

「なにしてんだ？早く行くぞ」

未幸

「うん、ちょっと肩かして、頭打ったからクラクラする」

優夜

「はぁ………またか………ほら」

未幸

「ありがとう」

病院に行った後、そのまま学校へ向かったが
途中で検問につかまって遅れたのは言うまでもない
車に乗ったらいつもこれなんだよなぁ………

第一話 あたりまえ(?)の日常(後書き)

はい、第一話でした。

どうですか？非日常が日常としてあり前の世界は

ついでにこの町で不幸なのは主人公だけです

キャラクター達は「こいつだから当たり前」「こいつだからまだいいほう」と考えてます

これからどうなっていくのか……

その内転校生だしてツッコミ役にしようかな？w

第二話 今回で49回目らしいです(前書き)

タイトルは思いつかなかったのでちょっとぶざけました
すみません……
ではどうぞ

第二話 今回で49回目らしいです

学校に到着した

うちの学校は広い

とにかく広い

うちの学校は小学校から大学まで備わっており、しかも毎年はいってくる人数が多いためこのように広いらしい
しかし

「広すぎるよなあ……」

「まあ、そうだな」

東京の半分が埋まる広さらしいから驚いた

あまりに広すぎて毎日小学生から迷子がでるくらいだ

まあ、区切られてはいるからそこまで遠くまでいったりはしないはずだけど

「広すぎて廊下の先が見えないもんな」

「そうなんだよなあ……」

おかげで毎日足が疲れる

でも、これくらいなら幸せな方だよな」

「だよな

退学にされるくらいなら廊下に立たされたほうがましだよな」

え？なんで廊下の状況がわかるか？

そりゃ………ね？

「遅刻して廊下に立たされるのって今何回目かな？」

「そうだな……」

「この合格発表の時に前とお知り合って、そのあと4月5日から今日の6月18日まで登校した日は毎日遅刻していて

休みは合計25日……4月5日から6月18日まで74日だから……

…49回目だな」

よくでるな……」

「妃って頭いいよな」

「そうか？」

「そうだよ」

先週イケメンでさらに毎日遅刻してるからって数学のハゲ松が東大入試の問題出したけど完璧に返り討ちにしてたじゃん」

あのとときのハゲ松の顔は傑作だったよw

ついでにハゲ松の名前の由来は、頭はバーコードハゲ、名前が松茂だからハゲ松

影でバーコードと呼んでる奴等もいるらしい

「そんなにすごいかな？」

今習ってるのとちょっとした記号の意味を覚えたら後は応用だけで解けるぞ？」

「そのちょっとした記号の意味を覚えてるのがすごいんだよ」

記号ってなんかややこしいからね
意味とかも違うし、書いた順で意味が変わったりしてややこしいよ
ね？

「そうか？」

漢字よりかは覚えやすいと思うけどな……」

「ええ〜そう？」

漢字の方が部首と組み合わせを覚えるだけだから簡単だと思うよ？
応用とかそういうの殆どいらないし」

単純に毎日書いて読んでしてたら覚えると思うけどなあ？

「お前も大概頭いいと思うけどな……」

どうやったたら漢検1級を小学生1年生が取れるんだよ……」

それを聞かれたら

「暇つぶしで漢字ドリルをやったら」

「努力の天才って奴だな」

「褒めるなよ」

（ガラ！）

ん？教室のドアが開いて中から数学を教えてくれてるハゲ松がでて
きたぞ？

ナニカヨウカナ〜？

「お前等静かにしろ！」

「うっせえ！ハゲ松！」

「ハゲって言うな！」

「ハゲをはげって言って何が悪い！」

「第一はげてるのに何で松なんだよ！
松みたいにふさふさじゃねえだろ！」

「てめえは竹で十分だ！」

「お前等あ…！廊下に立ってる！」

「現状見て言えハゲエ！」

これが毎日の光景

廊下で妃と話して、ハゲ松が叫んで、それを2人で撃墜する
まったくハゲ松も懲りないものだ

で、数学の時間が終わって体育の時間

「はい、集まれ〜」

体育の先生の梅ゴリがみんなを収集する

マイクを使ってないのにここから1kmは離れてる中学生寮に声が
届くらしい

ついでに見た目は完全なゴリラだ

本名に梅は入っていないが、何かと梅が好きなので梅がついた

梅が好きなゴリラというのも珍しい

え？人間？

そうだったのか？

「ええ、今回は前回言った通り

君達4組と教師全員で「制裁ドッチボール」を執り行う

これはハグ松茂先生つから、教師陣の体力を見せておかないと定められるとのご意見があったため行うこととなった

ルールは普通のもので変わらない

ただし！我々教師陣の平均年齢は高く、君達のほうが若いため、君達は利き腕の反対の手でボールを投げてもらう！」

マジか……

「なお！君達4組は女子は応援、男子はくじ引きで決まった10人以外は応援に回ってもらう！

ではここから一人一枚引け！」

そういつて箱を取り出す梅ゴリ

どこから取り出したんだ？ジャージ以外に梅ゴリの身の回りにある

ものは無いぞ？

まあ、とりあえず……

参加したくねえ……

第二話 今回で49回目らしいです(後書き)

はい、次回不幸は参加することになるのか！

はたまた参加せずに見学することができるのか！

そしてハゲ松はどうなるのか！

一応決めてますけどね？

ついでに今回の妃の計算は、2011年度のカレンダーを参考にしています

週の休みは日曜日と木曜日です

にしても広いなあ〜なんで全寮製にしないのか？

第三話 メンタルは弱いらしい(前書き)

制裁ドッチ 制裁ドッチ

完全にフラグ

ではどうぞ

第三話 メンタルは弱いらしい

くじ引き中、しばらくお待ちください

「うわっ！俺行くのかよ」

「はっはっは！まあがんばれよ」

「よし！燃えてきた〜！！」

「ぼ、僕勝てるかなあ〜……」

皆さん引き終わったようで賑やかだねえ……
皆さんワクワクしてらっしゃる方もいれば嫌がっている人もいるし、
不安になってる人もいる

「みんな大変だなあ〜……」

「人事か？俺たちも参加だぞ？」

それは思い出しではいけないことだ、妃くん

「さて、準備運動でもしようぜ」

私はくじ引きという過程で疲れたのでパスさせてもらおうかな？

「さて、休憩ガシッ休ググフウ！？」

後者の影に向かおうとした瞬間に妃に羽交い絞めにされた!?

「お前が考えることぐらいわかる
ほら行くぞ」

「H A N A S E !

俺は休むんD A . . . ! !」

梅ゴリがいる時点でアウトだよ!

あいつはドッチボールで生徒の肋骨を折ったことがある!

その時はハゲ松がかばったから出て行かずにすんだらしいが……

それからは梅ゴリとドッチボールをするのは全員が拒み、禁止にな
っていた……

しかしそれを制裁という形で行っているのだ!

絶対に誰かの肋骨が折れる!

俺はそれから逃げる!!」

「おい、1人で喋ってないで早くやれよ」

「え?口から出てた?」

「ああ、かなり聞こえてた」

それヤヴァス

「どのあたりから?」

「絶対に誰かの肋骨が折れるって言ったあたりから

梅ゴリはメンタル弱いから聞こえる前にやめて準備運動でもしろ」

まあギリギリセーフかな？

梅ゴリがもたえてるように見えるけど気のせいだろうし
準備運動か……仕方ない……………

「わかったよ……」

さて、準備運動にうさぎ跳びでも……………」

「絶対足を痛めて抜ける算段だろ」

「うん」

「強制執行！」

襟の後ろを捕まれて引きずられた

「H A N A S E !」

俺は動きたくないんだー！！」

「もうそのネタはいいからやれ！」

断固として断る！

「嫌D A - - ! !」

「いいからやれ……」

「はい……………」

やりますからその首に当たってるひんやりしたものをしまっ……………

準備運動は終わってただいまコートの中でございます
今から始まる教師チームワンサイドゲームとの試合はどうなるんだろっね？
まず間違いないことは……

「怪我人がでるな！」

「胸を張っていなよ……」

それは梅ゴリの玉を見てから言っただけ

「だってあの玉は下手すりゃ死者が出るぞ？」

「おいそんな事言ったら！」

あ、梅ゴりがOTZしてる……

orzではなくOTZこの大きさが大事

(ピー！)

「始まったな、構えとけよ！」

「無論！逃げる！」

とりあえず誰かの後ろに逃げるんだ！！

「……………」

え？今妃が何か言っただろ(ドゴォ！)

「ぐはあ……」

少し傾けた視線に映ったのは自分がいいた赤いしぶきと少し赤色が
にじんだ体操服、そしてボールを投げたあとの体制で「やっちまっ
た！」って顔をしてる梅ゴリの姿だった

「不幸……！！！」

妃の声を聞いた直後、俺は意識を失った

第三話 メンタルは弱いらしい（後書き）

めっさ異世界フラグww

自分でもなぜ立てたのかが分からない……

異世界らめえ！の意見が多ければやらないね、やっちまえ意見が多ければやるけど……

ではまた次回！

第四話 学校ってそんなに怖いところだったけ？（前書き）

かなり久しぶりの更新ですね

呼んでる人がいるとは思えない……

でも更新します

だって失踪しっぱなしとかしゃねになんないじゃん……

ではござ

第四話 学校ってそんなに怖いところだっけ？

ここは……

ベッドの上？

病院かな？

包帯巻かれてるっばいし

「あゝ痛い……

まったくなんなんだ？」

頭は痛いし、胸あたりは痛いし、体は動かないし……

体が動かない？

「……………」

ふん！ふん！

ふんぬうううー！！」

動け！

俺の体ー！！

「ダメだ……

まったく動かん……………」

何があつた？

なぜ体が動かない？

そしてなぜ前が見えない？

「あ、包帯が巻かれてるのか……………」

ちよつとずらせば……

「よし！」

これで！」

……見えねえ……」

まぶたは開いたはずだし
包帯はちゃんとずらしたし
まさか部屋が真つ暗なのか？

「誰か来るまで待つか……
病院っぽいし」

(ガラガラガラ)

早速誰か来たっぽい
これで何か見えるはず！

「ん？」

未幸？気がついたのか？」

「おお、その声は我が友人の……
いや、兄弟？親戚？」

やべえ……

記憶がねえ……

自分の名前と今の声を知っていることぐらいしかわかんねえ……

「おいおい、ふざけんなよ？」

あんまりふざけると怒るぞ？
記憶喪失じゃあるまいし」

「実はそうなんだ
自分の名前とおまえの声を知っている以外まったくわからん
そして前が見えんし体が動かん」

「マジカ……
先生がやばいかもって言ってたけどまさか当たるとは……」

「どういうこと？」
「お前は体育の授業のドッチボールでボールが当たって血を吐いて
倒れたんだよ
顔面に当たって、倒れたところに大きめの石があって、それで肋骨
が折れたんだ
そして、顔面ヒットのあたりどころが悪くて失明したようだな
さらに脊髄にもダメージがいつて、全身麻痺してるらしい」

「へえ……つて!？」
学校のドッチボールで骨折に全身麻痺に失明に記憶喪失!？
どんな学校だよ!」

「そういう学校だ
というかお前の場合は、今回は少し運が悪かっただけで、よくある
ことだ」

「俺って人間なのか？」

「超絶に運が悪い人間だ」
それを人は人外と言う

これからどうしようかな？
記憶ないし、全身麻痺だし、失明してるし……
まず明るい未来は待ってないよな……

「とりあえず学校行くぞ」

「え？この状態で？」

「そうだが？」

「でも体動かないし、目が見えないし……」

「車に引かれて血まみれの状態で学校に行くのがいつものお前だからな」

「それなんて人外……」

いや、人外を超えてる？

「普通だよ、お前なら」

マジカ……

「ところでお前の名前は？」

「妃だ」

とりあえず車椅子は貸してもらってるからさっさと行くぞ」

「準備いいなあ……」

「いつものことだ」

「軽く人外ツスね先輩……」

「いつものことだろう」

あ、あと、おまえの回復力ならいつかは目とか体は治ると思うから
まあ、医者は絶対治らないとかいってたが、お前の今までの回復力
と自然回復したきずの深さを考えれば治るのはそう遠くないと思う
記憶もないなら新しく覚えればいいからな」

それなんて人外……

二重の意味で

学校に行くのか……

死なないように頑張ろう

記憶の断片その1

『自分を含め、身の回りは人外が多い』

第四話 学校ってそんなに怖いところだっけ？（後書き）

うん、何がしたかったんだ俺

これからは不幸の記憶集めが始まるよ

たぶん……

これからどうしよう……（内容的な意味で）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5545w/>

幸せ学園生活

2011年12月13日02時08分発行